土岐市教育研究所
ＴＥＬ　0572-54-1111　(内373)
ＦＡＸ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所報　Ｎｏ．５５７
発行責任者　所長　塚本　修
発行日　令和３年５月１４日
題字　山田恭正　教育長

『出逢い』

撮影　西陵中学校　福田隆成先生

出　会　い

土岐市教育研究所長　塚　本　　修

４月は「出会い」の季節です。私たち教職員も、既に３つの「出会い」をしています。

１つめの「出会い」は、同僚の教職員との出会いです。「同じ釜の飯を食う」という言葉があります。広辞苑を引いてみると「起居をともにした親しい仲をいう」とありました。毎日同じ学校の屋根の下で、同じ日課で生活し、同じ給食を食べています。時として、気の合わない人との出会いになることもあります。しかし「人は出会うべき時に、出会うべき人に出会う」と言われます。共に生活しているうちに、その人から様々な刺激を受け、生き方や考え方が変わることもあります。あなたが必要だからここにいると考えてみてはどうでしょうか。

２つめの「出会い」は、校務分掌との出会いです。中には、自分には重荷で苦手な分野の仕事を受けもたれた方もおみえになることでしょう。しかし、自分には向かないと思っていた仕事が、やり始めると楽しかったり、それまで知らなかった自分の適性や能力を発見したりすることもしばしばあるものです。仕事も何らかの意味をもって出会っているはずです。自分の可能性を広げ、自分を成長させるチャンスかもしれないと考えてみてはどうでしょうか。

３つめの「出会い」は、もちろん児童生徒との出会いです。出会うべくして出会った児童生徒とこれから１年間どう向き合っていくのかが最も大切です。児童生徒に与える先生の影響は、計り知れません。先生が毎日笑顔でいると、不思議と笑顔の児童生徒も多くなります。先生が児童生徒に考えることをさせずに指示ばかり出していると、指示待ちの児童生徒になります。行動や話し方が、先生のコピーとなってしまう児童生徒もいます。何年か後に「〇〇先生に出会ったから、自分の生き方や考え方が変わった」と語る児童生徒の姿を想像して…。「今、あなたが必要だから、この学校に、この学級に、この子がいる」のです。

令和３年度がスタートして、１カ月が過ぎようとしています。出会うべくして出会った教職員と、出会うべくして出会った仕事に、そして出会うべくして出会った児童生徒に積極的に向き合ってみえる先生方の姿を拝見し、本当に頼もしい限りです。ありがとうございます。１年間よろしくお願いします。

まずは成すことから

～新しいことへの挑戦～

土岐市教育長　山田　恭正

個人的なことですが、昨年の本原稿で自身の健康上の問題を記述しましたところ、数多くの方々から「大丈夫！」と声をかけていただきました。あれから丸一年経過し、「良好」の検診結果を得ました。ご心配をおかけしました。

みなさんも何か異常を感じたら必ず検診を受けてください。早ければ早いほどよいことを身をもって感じています。「案ずるより産むが易し」⇒「まずは成す(診てもらう)ことから」です。

恐縮ですがこの話の続きになりますが、‥健康第一と考え、土岐市推奨の「ノルディックウォーキング」を始めました。普通に歩くより「効果あり」の宣伝文句を受けてとにかくやってみました。

成程、確かに良い感じです。上半身(腕)の力で歩くためスピード感と全身運動の凄みがあります。何より膝の負担感が減りました。現在ハマっています。まさしく「まずは成す(やってみて)ことから」得た体験です。

さて、本題に入ります。まず新型コロナウィルスの対応です。昨年から丸一年以上、先生方には大変ご苦労をかけています。現在も進行中ですが､むしろひどくなっていく感があります。

今年度の教育活動の計画を立てていく過程で、昨年度の対応を踏まえ、取り組んでいただいています。入学式、始業式や授業参観などすでに終了したもの、今後予定している宿泊的行事や体育的行事などについても、いくつかの対応策を立てて、準備に入っていると思います。

いずれにしても、「成すことによって」得られた経験に基づいて、何とか実施し、そのことを検証しながら、よりベストな内容にしていくことになります。その営みの原点は、まずは「成すこと(やってみる)」ということになります。

次に、今年度からスタートしています GIGA スクール構想いわゆるＩＣＴ教育の取り組みについて考えてみます。端末のタブレットが先に導入され、Wi-Fi 環境があっという間に整い、さてどうするといった現状ではないかと推察します。

そこで市教委は、「学びのＩＣＴ支援室」を設置し、全力でサポートすることにしました。正直、何をどんなスケジュールで進めるか、懸命に調整中です。こんな支援室の状況の中で申し訳ありませんが、とにかく以下のように「まずは成すことから」を方針で一緒に進めていってください。

(1)全速で走りながら、触れてください。

まずは、どんどん使ってみてください。学習支援ソフトやオンライン授業の準備を全速でやります。

(2)微速で走りながら使ってください。

どんな使い方ができるか、どんどん試してください。学年や教科毎でややスピード感をもって取り組んでください。

(3)早歩きしながら慣れます。

学習支援ソフトやオンラインの導入後は、使い慣れてください。

(4)歩きながら学習の道具として定着させてください。

自然な形で、授業に位置付けてください。

(5)時々立ち止まって効果を確かめてください。

今までの授業と何か変わってきたのか、みんなで論議してください。

まずは成すことから…

「最適解」（資質・能力）探究の営みを支え合う校長会

土岐市小・中学校長会　会長　橋　本　勇　治

１　子ども達が学校に通えている間に

本稿を執筆している今も、全国の感染者は急増・急拡大しており、隣県愛知県でも、まん延防止等重点措置の適用が決まったと、繰り返し報道されています。本誌が皆様のお手元に届く頃は、全国的レベルの第４波のまっただ中かもしれません。ちょうど１年前も、子どもが学校にいない新学期を迎えていました。静まりかえった校舎の中で、なんとも張り合いのない、空虚な時間を過ごしていたことを思い起こすたび、子どもたちが学校に通えている間にしておくべきことがある、という思いを強くします。それは、限られた授業時数の中で少しでも多くの知識や技能を身に付けさせようとすることではありません。言ってみれば「一人で学ぶ力」を付けることです。臨時休業中に学校間や生徒間に学力差が広がったとしたら、それは各学校の課題の内容や方法の差、学校や家庭のＩＣＴ環境の差、自宅学習における保護者の理解と協力の差など、様々な要因が考えられます。そうなると、一番重要なことは「一人で学ぶ力」の差です。同じだけの課題を出したにもかかわらず、その成果には質・量ともに差が出てしまうことは、やはり憂慮すべきことです。これはほんの一例で、このコロナ禍の中、子ども達が学校に通えるうちに身に付けておくべき資質・能力は他にも数え切れないほどあります。

２　投げかけられた多くの深い問い

コロナ禍が、私たち学校や教師に多くの深い問いを投げかけてきました。その問いにより、今まで無意識・無自覚だったことが、いかに多かったかに気づかされる毎日となりました。その中の一つが、「学校の価値」です。臨時休業になり、当たり前だった日常が失われたことで、そもそも学校は何を担い、何を守り（しがみつき）、何を育んでいたのかが、改めて浮き彫りにされた思いです。学校はただ単に「教育」を担っているだけではないことを実感し、これからの「教育」のあり方を足元から見つめ直すことができた気がしています。そして、これからの VUCA（変動性・不確実性・複雑性・不透明性が高い状態）と呼ばれるような「予測不可能な未来」を生きる子ども達が、真に自立的・主体的に生き、社会の形成に参画するためには、どのような資質・能力を身に付けていなければならないのでしょうか。そんな切実で深い問いが私たちに投げかけられてきたのです。そして、私達はその問いの答えにふさわしい「解」を必死に求め続けてきました。どの学校も、そして、どの校長も、感染拡大への直接的な対応のみに翻弄されてきたわけではないはずです。新年度のスタートラインに立つ今、これまで求め続けてきた「解」を大切に残し、新たな「解」の探究に向けて再び動き出すことが求められています。

３　最適解（資質・能力）探究の営み

こんな状況下であるからこそ、求める「解」は最適なものでなければなりません。そして、その資質・能力は的を射たものでなければならないと考えます。たとえば、意図する資質・能力にロック・オンし、それを「最適解」とするならば、抽象論や理想論が一方的に論じられるのではなく、学校全体で具体的な教育実践・体験を通してその「解」を探究し、実感を伴った子ども・職員間の対話を通して深く共有されていく必要があると感じています。私たち土岐市小・中校長会は、各校で校長が行うこうした「最適解」（資質・能力）探究の営みを互いに支え合える存在でありたいと願っています。

４　責任のあるリーダーとして

校長は、３０年余の経験を経てこの職を拝命していますが、自身のこれまでの実践から得られた教育に対する信念を大切にしながらも、過去にとらわれることなく、新しい道を切り開くことが、常に求められていると実感しています。教職経験豊かな、責任のあるリーダーとして、固定観念に縛られることなく、会員１４名の知恵を出し合いながら、創造的に捉え、考え判断し、活動していく所存です。

土岐市教育相談・適応指導教室

浅野教室では

浅野教室室長　小木曽　寛美

新しい学年、学級の仲間、担任の先生など期待と緊張でスタートしたこの新学期、子どもたちはみんな笑顔で登校しているでしょうか？

どうしても、学校に適応できない状況が出たとき、浅野教室の活用を選択肢の一つとして考えていただけるとありがたいです。

浅野教室には大きく３つ、以下のような役割があります。

１教育相談

電話相談・来室相談　両方受け付けています。小中学生、保護者、教職員の先生、どなたでも、ご相談ください。

（平日９時００分～１５時００分）

２カウンセリング

専属のカウンセラー(臨床心理士)が対応します。市内の保護者や小中学生がカウンセリングを受けられます。（毎週木曜日）

個別のカウンセリングの他に、保護者対象のグループカウンセリングも行っています。

（第３木曜日の午後）

３適応指導教室

学校に行けない、という状況になったときに、家庭以外の居場所となり、学校や社会とつながる場所になります。保護者や学校と課題や情報を共有しながら、その子どもに合った目標設定をしながら、支援していく場所です。

（月水金９時００分～１５時００分、
火木９時００分～１２時００分）

私は、この４月から浅野教室で室長としてお世話になり、何人かのいわゆる不登校の子どもたちと出会いました。

「学校に行けない」という状況は子ども一人一人違います。その理由が学校にある場合もあれば、学校以外にある場合もあります。子ども自身でさえわかっていないこともよくあることです。また、家庭の教育力の問題だったり、その子のもつ発達の課題だったりすることもあります。

浅野教室の子どもたちは、それでも、一歩踏みだそう、と思って来る子どもたちですから、次のことを大事にして支援していこうとスタッフと話しています。

①　自己肯定感を高める

学校に通えない、というのは、本当に自分に自信がないのです。だから、集団が苦手で学習の遅れからも目を背けてしまいがちです。よさを認めてその子に返していこうとしています。また、子どもたちに任せられることはできるだけ「頼る」ようにしています。自己有用感をもってほしいからです。

②　自己理解を促す

対話を通して、自分の気持ちに気づかせたいと考えています。学校のこと、家庭のこと、自分の進路のことなど、気持ちを言語化することは大切です。

③　自主的に考えたり動いたりする場を作る

ここでは、どうしても与えられたりすることが多いので、自分から欲したり自分で決めたりする機会をできるだけ作りたいと考えています。

そして、こうした積み重ねの中で、その子その子の「目標設定」ができることを目指しています。自分の生活の目標、学校との関わりの目標、自分の進路の目標、そうしたものを、子ども自身と保護者と学校の先生方と共有できたらいいなあ、と思っています。

とは言え、子どもは一人一人違うので、なかなかすんなりとはいきません。保護者や学校の先生方と連携しながら日々、積み重ねていくことを大事にしていきます。

主に教育研究所が行う

土岐市教員研修の全体構想

基本方針

教職員としての魅力や実践的指導力を高める研修の充実

研修の重点

① ミドルリーダーの育成を図る研修の充実
② 経験・職務に応じた研修の充実
③ 今日的課題に対応する研修の充実

教科指導力の向上

市教研

- 子どもたちが主体的に取り組む学習指導の確立（魅力ある教材と学び方指導）
- 「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現
- 感性や創造力を発揮して自分の考えを広げたり深めたりする協働的な学びの実現

学級経営力の向上

初任者
- ○市初任者研修 年2回終日

3校目までの教員
- ○教育実践論文研修
- 学級経営研修

教育長訪問時における研修

職務に応じた研修

教務主任
- カリキュラムマネジメント
- ○教務主任研修会　年5回
- ○教育課程研　年2回
- カリキュラムマネジメント、QUや

事務職員
- 学校運営の円滑化
- ○事務職員研修会 年10回程度実施

生徒指導
- いじめ・不登校対応
- ○生徒指導主事研修会 年10回程度実施

養護教諭　保健主事
- メンタルヘルス アレルギー対応
- ○養護教諭研修会　年8回
- ○保健主事研修会　年1回
- 「あすの子どもを育てるために」発行
- ○メンタルヘルス研修
- ○エピペン研修

人権主任
- 人権教育の推進
- ○人権主任研修会 年1回実施
- 「人権教育推進のあゆみ」発行

特活主任　進路主事
- キャリア教育
- ○特活主任研修会 年1回実施

図書主任
- 図書館教育の充実
- ○図書主任研修会 年1回実施
- ・市図書館との連携

6年目までの教職員
- 教職員資質向上サポート事業
- ○授業指導力向上
- ○授業以外の相談

道徳教育推進教師
- 特別の教科道徳
- ○道徳教育推進教師研修会 年1回実施

ICT教育推進委員
- ICT教育の推進
- 情報モラル等
- ○説明会及び研修会 年6回程度実施

食育推進教師
- 食育
- ○食育推進研修会 年2回実施
- ・栄養教諭との連携

特支コーディネーター
- 通常学級における特別支援教育
- ○特別支援連携会議
- ○特支コーディネーター研修

外国人児童生徒担当
- 外国人児童生徒への指導力
- ○肥田小学校を中心とした研修

教育相談担当
- 教育相談体制の充実
- ○SSN教育相談研修会の実施

校区の接続・連携
- ICT・プログラミング
- 学力向上　道徳教育
- 学級経営　学力向上
- 不登校対策・支援

校長会

（講師研修）若手教員育成 → ミドルリーダー育成（管理職養成） → 管理職育成

教職員指導力向上事業
（担当者、関係者悉皆＋希望者）
- ○今日的教育課題や定期的にスキルアップする必要がある研修内容を計画
- ・ICT教育推進研修（活用、著作権等）、プログラミング教育、カリキュラムマネジメント研修、QU研修、道徳教育研修、人権教育（LGBT等）、小学校英語教育、実践論文

児童生徒能力開花応援事業
（希望児童生徒＋保護者）
- ○科学作品パワーアップ講座
- ○社会科作品パワーアップ講座
- ○イングリッシュキャンプ（英語）
- ○読書感想文講座（市図書館）
- ○核融合科学研究所とのコラボ講座

学力向上推進委員会（企画委員会）

企業研修

- ○実践論文や教材教具作品などの作成、出品
- ○科学作品、社会科作品など子供の作品を出品

サマーセミナー
（課題に応じた希望参加型）
- ○ICTの効果的な活用にかかわる研修
- ○外国籍児童・生徒への支援スキルアップ研修
- ○発達障がいをもつ子どもの理解、支援研修
- ○救命救急研修
- ○技能教科指導力向上研修
- ○造形遊び研修　等

「心にひびく言葉」

「仲間探し、幸せ探しの達人」

土岐津中学校　　校長　伊藤　策雄

新任校長として赴任した学校で、二宮金次郎さんの７代目の子孫である中桐万里子さんの話を聞く機会がありました。中桐さんが子どもの頃、落ち込んでいると、お婆ちゃんが、金次郎さんの話をしてくださったそうです。私の脳裏に浮かんだのは､薪を背負い､本を読む金次郎さんの姿です。

金次郎さんは、早くに両親をなくし、働かざるをえない状況にありました。自分の生きる道を教えてくれる人も無く、本が好きだった父親の生き方が本を読めば分かるかもしれないと本を読むようになったそうです。

金次郎さんは、**「あきらめない、くじけない、自分のできることからやる」**という強い心の持ち主でした。また､**「仲間探し、幸せ探しの達人」**でした。いやなことがあっても、いいように思ったり、いいことに目を向けたりすることが自然にできる人でした。話の中で、中桐さんから「当たり前の反対は何でしょう。」という質問がありました。答えは､**「ありがとう」**でした。何事も当たり前だと思っていると､ついつい感謝の心が無くなります。今自分が生きていることも当たり前ではなく、何事にも感謝の心をもって生きていくことが大切だと学びました。**ありがとうのたし算をすると「幸せ」になれる。これこそが「仲間探し、幸せ探しの秘訣」**だと感じました。

私自身も大切にしてきた思いですが、金次郎さんの話を聞き、改めて感謝の大切さを心にもち、人と接するようにしています。

掲　示　板

本年度もよろしくお願いします

【教育研究所】

所　　長	塚本　　修	（教育次長）〈前列中央〉
主　　任	加藤　　望	〈前列左〉
副 主 幹	安藤 律子	〈前列右〉
指導主事	保母 征之	（管理主事）〈後列中央左〉
嘱託指導主事	林　　奨司	〈後列左〉
	杉浦 正佳	〈後列中央右〉
事務職員	伊藤のり子	〈後列右〉

【ＡＬＴ】
〈左より〉
マデリン
　　アルマン
ウイリアム
　　スワン

【浅野教室】
〈左より〉
室長
　小木曽　寛美
相談員
　加藤　　千穂

編集後記

奇しくも一頁に「であい」に関わり「出逢い」と「出会い」の標題ありました。４月、コロナ禍の中でも、市内すべての園・学校に、多くの新たな「であい」がありました。どの「であい」も意味あるものです。「であい」に感謝する気持ちで向き合いたいものです。